

○議長（茅沼隆文）

続いて一般質問を行います。

7番、下山千津子議員、どうぞ。

○7番（下山千津子）

皆様、おはようございます。7番議員、下山千津子でございます。

通告に従いまして、町民参加事業などの推進体制整備について問うの質問をさせていただきます。

開成町は、「教育のまち」として第五次開成町総合計画に示されております、いつでも、どこでも、誰でもが学習することができるよう、町民センターを中心に生涯学習講座などが展開されております。事業に内容といたしましては、各種講座、講演会、あじさい塾、出前講座などがあります。学習の受け手側に対して提供側の真摯な取り組みにより各講座は存在し、長年、積み重ねられてきました。

今後も「教育のまち」として、町民の誰でもが自主的に参加できる事業へとさらに発展することを願って次の質問をいたします。

問1、毎年度における講座などの年間スケジュールは、どのように計画し実施されるのか。

問2、各種事業における講師などについて、①講師などの選定基準は。②講師などとの具体的な取り決めは。

問3、開成南小学校では、開校当初、体育施設だけでなく、生涯学習の場としての一般開放をうたわれていたが、現状の利用状況及び今後の利用促進策はどのように考えているのか。

以上、壇上からの質問でございます。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

それでは、下山議員の御質問にお答えします。

開成町では、「開成町人づくり憲章」にのっとり「開成町教育振興基本方針」を策定しております。その中で、生涯学習については、生涯を通じての学習や体力づくりを通して自らを高め自立を図ることを目指すとしており、町民センターを活用した生涯学習講座、瀬戸屋敷を町民の学習の拠点として位置付けたあしがり学校の開催など、生涯学習プログラムの充実を図っております。昨年度から実施しておりますあじさい塾（土曜学校）も、こうした考えのもとに新たな取り組みとして実施しているところです。また、その他の取り組みとしては、役場内の各課等でも関係分野について学んでいただけるように学習の機会を設けております。

今回の御質問の内容は、町民の学習機会提供にかかわる事業など多岐にわたっていますので、ここでは教育委員会が所管する事業について説明させていただきます。また、御質問では、各種の講座について年間スケジュールの計画、講師との調整等

に質問をいただいておりますが、回答が分かりにくくなりますので、講座ごとにまとめて説明させていただきます。

まず、町民センターで行う生涯学習講座は、年度末に当該年度に実施した講師から来年度の講座の開設希望をお伺いし、また受講者アンケートの結果を踏まえまして予算や講座内容の重複などを加味しながら調整し、年間スケジュールを作成し、年度当初に生涯学習ガイドとして全戸配布しております。

生涯学習講座の講師については、主に町民センターへの掲示等で「かいせい人材バンク」の募集を行い、登録いただいている方々の中から講師をお願いしているところです。講師の方との調整は、年度末の開設希望調査時に開催時期や実施回数など大まかな年間スケジュールの確保をお願いし、実際に講座を開催する3カ月前くらいから、おしらせ版に掲載する内容など具体的な調整を行いまして、実際に参加者を募集して講座を開催しているところです。

平成28年度実績としましては、32講座を計72回実施し、延べ受講者数は672名となっております。講座の内容は、腰痛予防体操講座、歴史講座、スケッチ、カーレット、星座観測など多岐にわたっております。

昨年度の反省点としましては、当初44講座の実施を予定しておりましたが、受講者が集まらないなど12講座が未実施となったところです。今後は、町民の方々のニーズの把握方法の検討を行うとともに、多くの世代の方々に参加していただけるよう講座の開設を工夫していきたいと考えております。

次に、昨年度から実施している小・中学生を対象としたあじさい塾「土曜学校」について、説明させていただきます。

年間計画の作成にあたっては、園、学校や町行事などと重複しない土曜日を設定し、また講座内容が偏らないように計画して、小中学生にプログラムの配布を行い、参加者を募集しました。あじさい塾では、主に子どもたちが興味を持つことができる講座を開設していることから、開催の趣旨に御理解いただける町民や団体、企業など幅広い分野から人選を行い、講師をお願いしているところです。また、講座内容のバランスや開催時期にふさわしい内容を選定し、それぞれの講師とあじさい塾の趣旨や目的をお話しした上で講座を実施しております。

昨年度は15講座を開催し、児童生徒延べ244名が参加しており、講座の内容としましては、小学生の低学年から学べる「手話講座」、キャリア教育としてのパイロットから学ぶ講座、親子での料理講座、たこづくり、日本文化であるお茶やお花の講座などを企画して実施し、参加した子どもたちや保護者からは好評を得ております。

そうした中でも昨年度の反省点として、年度当初に年間計画を作成して実施したところ、町や他事業と日程が重複する日が多くあり参加者が集まらない、日程を変更せざるを得ないなど混乱が生じたことと、講師の方との意思疎通が十分でなく、準備が不十分なまま開催となった講座などもありました。今年度は、前年度の反省を踏まえて実施計画を学期ごとに作成し他事業との重複を避けるなど、子どもたち

や講師の方に御迷惑をかけることのないようにプログラムを作成して参加者を募集する方式に変更するとともに、講師との事前調整も十分行うように配慮しているところであります。

続きまして、町長や町職員が行う出前講座である「あじさい講座」については、年度当初に各課で講座内容を精査したものをおしらせ版に一覧として掲載し、講座開設を希望する団体等を募集して、依頼がある場合には、講座内容に応じて町長はじめ各課の担当職員が講師として自治会等へ出向くなど随時対応しているところであります。講師の依頼申請は、教育総務課が一括窓口となりまして、申し込みのあった講座を主管する担当課と調整を行い、担当職員を決めて自治会等へ報告し、事前調整を行った上で講座を実施しております。

平成28年度実績としましては、自治会や企業から計7回の講師派遣依頼があり、内容は、高齢者の健康管理、メタボリック症候群についてなど健康に関するものが5回、下水道について1回、介護保険についてが1回となっております。毎年の依頼件数は年、数回にとどまっていることから、町民等に分かりやすいメニューづくりなどに努めていきたいと考えております。

町民の学習機会の充実には従来から取り組んでおりますが、今後は、学ぶだけでなく、講師として「教える」ことが生きがいや、やりがいになるという視点でも取り組みを進めたいと考えております。

次に、開成南小学校では、開校当初、体育施設だけでなく生涯学習の場としての一般開放をうたわれていたが、現状の利用状況及び今後の利用促進策はどのように考えているのかについて、お答えいたします。

平成22年4月に開校した開成南小学校では、体育館、運動場を社会体育として、また多目的ホールや音楽室など社会教育施設として、平日の夜間、土休日は施設を一日開放しております。これらの施設を利用するには、会員が10名以上の団体が町内に在住・在勤者が半数を占める団体が利用団体として登録でき、現在、「学校施設使用団体」は44団体となっております。

開成南小学校をはじめとする学校施設の利用にあたっては、年度の終わりに各団体の代表者による利用者調整会議を開催して、次年度利用するための登録と年間利用する際の割り振りを行うとともに、施設利用に関して適正利用をしてもらうよう注意喚起を行っております。

次に、開成南小学校の利用状況について説明いたしますと、平日の夜間を1コマ、土休日を午前、午後、夜間の3コマとして集計した平成28年度の利用率は、体育館は70%、運動場の昼間が62%、夜間ナイター利用が18%、社会教育施設では、多目的室では42%、多目的ホールで52%、その他、第二音楽室などの部屋での平均は8%であります。

施設の利用促進については、主に理科室、音楽室、家庭科室など特殊な部屋の利用が少ないことから、生涯学習講座などの講座で活用を図りながら、この講座の参加者や既存の活動団体への個別説明やPRを行って利用の拡大につなげていきたい

と考えております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

一定の御答弁をいただきました。

私は、このたび、日中国交正常化45周年記念特別企画の日中友好交流視察団の一員として参加させていただきました。その中の講演で、足柄歴史再発見クラブの取り組みを発表いたしました。一般の民間人が地元の歴史を子どもたちと一緒に学び、教え、伝える取り組みの発表が中国の各地代表の研究家の皆様に大変インパクトを与え、高く評価をされました。中国では、民間人が積極的に教育にかかわり一緒に学び合うことが、いかに新鮮なのかを示すものでした。

開成町の教育のまちづくりは、中国の将来の教育にも良いモデルになると思います。土曜学校をはじめ町民の協力を得て様々な事業が展開されております開成町を、大変誇りに思いました。今後、町民の皆様がさらに郷土愛を育んでいくことが、まちづくりを進める上でとても大事なことと感じ、帰国をいたしました。

それでは、随時、再質問をさせていただきます。

生涯学習講座の開成人材バンクの募集方法は町民センターの掲示板などで行っておりますが、現在の登録数は何人おられますか、お聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（橋本健一郎）

では、お答えしたいと思います。

こちらが、つい先日も登録者がおりましたので、今年の9月1日現在で申しますと、分野にしては90分野ございまして、延べ93名の方の登録をいただいているところでございます。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

平成28年度は44講座が実施予定でございましたが、受講者が集まらないなどで12講座が未実施で全体の27%にあたります。原因は何で、どのようにお考えでございますか、お聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（橋本健一郎）

お答えいたします。

今、生涯学習講座につきましては、最低5名、5名以上集まった場合に開催するというところで取り決めをさせていただいているところでございます。この中止にな

ったものにつきましては、やはり5名に達しなかったというところで中止になっているところでございます。そういった中では、毎年開催しているものですか、やはり受講される方にどうしても偏りがございますので、何回も受講してしまいますと魅力がないというところもあるかと思っております。そういったところも反省を踏まえまして、今後は、もうちょっと町民の方のニーズを把握した上で実施はしていきたいと考えているところでございます。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

集まらない原因を、今、課長が述べられましたので、ぜひ、そういう方向で御努力を願いたいと思います。

次に、先程お聞きいたしました、100名近く登録者がおるわけですが、平成29年度のスケジュールを決めるための案内はどのようにされておるのか、お聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（橋本健一郎）

お答えしたいと思います。

答弁の中でもございましたけれども、人材バンクに登録している方に、今年度につきましては、今年の1月、こちらについて、生涯学習講座の開設希望というところで登録者の方に通知をお配りしているところでございます。その中で、開設希望の日時ですか内容、あと回数等を希望調査ということでいただきまして、それについてまとめたものについて、この3月に開設の御通知等を差しあげているような流れで行っております。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

登録者に御案内を毎年されているようでございますが、登録者の全員に御案内を出しているのか、その点をお聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（橋本健一郎）

お答えいたします。

こちらについても、なかなか全員の方というところでは、先程、申した講座の回数もございますので、そういった中では、前年度に開設いただいた方を中心にお聞きしながら、それにいくつか新しい方を加えるような形で計画は立てているところでございます。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

平成28年度の講座を開催された方に御案内を出しているという御答弁をいただきましたが、先程、登録者は100人近くおられるわけでございます。その他の方に対しては、教育委員会ではどのようにお考えでしょうか。登録者に対してでございます。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（橋本健一郎）

お答えしたいと思います。

そうです。93名程いらっしゃるという中では、なかなか全員の方にお声かけができていないところについては大変申しわけなく思っている部分がございます。そういった方々には、先程、申しました、ほかのいろいろな講座ですとか、そういった機会もございますので、そういった部分でも幅広く、登録をいただいておりますので、声かけは今後していければなというところで考えております。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

せっかく町民の皆様が、町民のためや子どもたちのために役に立ちたいと思って登録をされている方々だと思うのです。ですので、そういう方たちのお気持ちをしっかりと受け止めて、今後、偏りのないような方法で講座を組んでいただけたらありがたいと思いますので、お願いいたします。

私が今回の質問をするのにあたりまして町民の方々に聞き取りをいたしましたら、ある方が、例えばですが、人気の講座と初めてお願いする講座を工夫して一緒に組み入れて行うのも一つの方法かと思いますが、例えばですけれども、体を動かすグループに対して、その後の合唱のグループとか、お紅茶とかお茶をいただくとか、そういうふうに組み合わせて計画されたらどうかなと思うのです。あとは、工芸グループ同士を組み合わせるとか。一工夫で開成スタイルを実践されるのも画期的な取り組みかと存じますが、この提案はいかがでしょうか、お聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（橋本健一郎）

お答えしたいと思います。

なかなか時間の制約等もあつたりしますので、どの講座とどの講座がよろしいかというところもございますので、そういった一つの方法としては承っておきたいと考えてございます。

あと、こういった人材バンクに登録いただいておりますので、そういった方については、教育委員会だけではなく役場内の各課等でも講座等を行っている部分でご

ございますので、庁舎内部についても、そういったところの名簿をお示しして、事業を行う場合には、登録した方をぜひ御活用といたしますか、講師としてお願いできるような体制も進めていきたいと考えております。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

今回、生涯学習講座の成功事例を紹介させていただきたいと思いますが、ある町民の方が講師を頼まれて、自分のチラシを自治会館に貼らせてほしいとお願いをしましたら、自治会長が少しチラシを拡大して掲示板に貼ってくださったそうです。そのおかげで、その自治会からの参加者が一番多くて大変賑やかな講座を開催することができたと、そのように講師の方がうれしそうにお話をされました。ぜひ、そのような仕組みを全町に展開してみてはいかがでしょうか、お聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

大変良かった例として、ありがとうございます。教育委員会といたしましては、各自治会の生涯学習推進部長を含めまして各自治会には5名以上の推進員がおります。その方たちに地域での生涯学習講座を開いていただけないかということで、年間数回、代表者に集まっておきまして、それぞれの自治会で行っている生涯学習講座、それらを例示していただきまして、こういう良かったものがあるのだよという方の啓発をしながら、幅広く今のような成功例を各自治会に広めていくという努力もしております。

教育委員会主催の、今、お話ししているのは生涯学習講座のことです。それ以外に各自治会にそれぞれ生涯学習推進講座を設けておりますので、その意味では数限りない、結構広い状況で開成町としては生涯学習に取り組んでいるという実態も報告したいと思います。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

各自治会でも生涯学習が熱心にとり行われているということでございますが、先程、申しましたように、やる気と少しのアイデアでそういう成功事例が開成町にはございますので、よろしくお聞きしたいと思います。

次に、人材バンクの募集方法でございますが、93名おられるということでございますが、私が今回、町民のいろいろな方々に接している中で、町民の中には多方面で活躍されている方がおられました。そういう方にお聞きしました。そうしましたら、この制度を御存知ない方がおられました。募集方法を広報紙とかおしらせ版に掲載したり、またフェイスブックなどを活用するなど、町民が目に触れる機会を多くするなどの方法も一案かと思いますが、こういったものを検討されるお気持ち

はございますでしょうか、お聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（橋本健一郎）

お答えしたいと思います。

先程、答弁では町民センターの掲示板が主なものというところでもございましたので、こちらの登録につきましても、おしらせ版等を通じて広く募集等はしていきたいと考えております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

次に、あじさい塾「土曜学校」について、質問をさせていただきます。

あじさい塾に関しましては、私や同僚議員も一般質問をしており、目的は、子どもたちに学校での教育課程以外の時間に地域の方々や子ども同士で学習や体験活動ができ、他人を思いやる心を養う場として道徳心の育成などの向上を図るとされております。募集のチラシを学校の昇降口、町民センター、あじさい塾ポストを設置し、申し込みに努力されておりますが、第1回のプロレスラーの大谷さんの授業では、いじめや力で人を制圧するのはいけないこと、命を大切にすること、良いことと悪いことの区別の内容であったと聞き、今の社会現象の解決策を子どもたちに問う内容で高く評価をさせていただきました。

それが、次第に本筋から趣味の世界に内容が変わっているように感じます。町長が私の昨年の9月の一般質問のときの答弁で、「平成29年度のチラシに「学力も体力も道徳心も、すぐれた子どもを育てる」のワンフレーズを入れます」と、はっきりとお答えになったのに、今年度は入っていないのはなぜでございましょうか、お伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（橋本健一郎）

お答えしたいと思います。

本年度につきましては、先程、答弁でもございましたとおり、学期ごとのプログラムということでつくらせていただいております。その中で、先程、申されました「学力・体力・道徳心も、すぐれた子どもを育てる」ということでございますけれども、そういったところは、文言的にはありませんけれども、実際の開催している内容としては、そういったところを踏まえながら実施しておりますので、そういったところで、ちょっと文言がないというところでもございましたけれども、そこについては、今後、2学期、3学期分とプログラム等はつくってまいりますので、そこでは入れてつくっていききたいと考えております

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

今後、2学期、3学期には、そのワンフレーズを入れて取り組んでまいりますというお言葉でございましたが、それまでのことで、町長は私の9月の答弁でそのように答弁をいただいたのですが、その点について、町長はどのように考えていますか、ちょっとお聞きいたします。町長の指示出しがなされなかったということをお聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

町長がきちんと公の場で口にしたことが実現できていなかったということで、これは教育委員会も含めて、今、下山議員が言われたように、指示出しがきちんとできていなかったということで反省をし、きちんとこのようなことが今後ないようにやっていきたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

ぜひ、お願いしたいと思います。

次に、生涯学習講座の講師は人材バンク登録に依頼されておりますが、あじさい塾は、どのような方々に講師を御依頼しているのか、また、その手順はどのようにされたのか。例えば、電話とか、口頭でお願いしたとか、文書でお願いしたとか、どのような形をとられたのか、お聞きします。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（橋本健一郎）

お答えしたいと思います。

こちらにつきましては、内容が多岐にわたっている部分もございます。そういった中では、まずは電話で御確認等をした中で詰めていきまして、その後に文書で開催の依頼についてお願いしているところでございます。その後も順次、開催まで調整を進めながら、開催に向けた準備等を行っているところでございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

今、電話で確認した後、文書で依頼をしたという御答弁でございましたが、私が今回、聞き取りをいたしましたところ、電話で受けたとか、その後の文書がなかった方々が結構おられました。なので、当日まで不安を抱えながら実施されたという

講師の方もおられました。その方たちは「子どもたちのために役に立ったので」と言われたときに、開成町の住民は何と心が豊かなのだろうと私は思いました。この課題を、ぜひ解決しなければとも思いました。

また、報酬の手違いがあったのも数人からお聞きいたしました。その点のフローチャートはどのような仕組みになっておりますか、お聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（橋本健一郎）

こちらのあじさい塾の報酬につきましては、町で開成町報償費支出基準がございますので、これに定められた基準に伴いまして支出等を行っているところでございます。あじさい塾に関しましては、特に手違い等はなかったと認めてございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

あじさい塾に関しては手違いがなかったと御答弁をいただきましたが、私が聞き取りをいたしましたところ、いろいろと問題があるようです。ですので、今回、私はこの質問をさせていただいておるのでございますが、教育委員会できちんと把握されていないのかなということも感じてございますが、報酬の件でございまして、どのような仕組みで。先程、質問しましたように、お金と仕事、このフローチャートがどんな仕組みになっているのか、お聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（橋本健一郎）

お答えしたいと思います。

先程、報償費につきましては支出基準がございますので、こちらの基準に伴いまして時間いくらというような、様々な団体等にかかわりがある方がいらっしゃいますので、それに伴いまして支出基準の金額によってお支払いをしているところでございます。それにつきましても、開催事前に報償費についてもお話をいたしまして、終わった後に、そちらの講師の方の口座へお支払いをしているところでございます。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

私が今回お聞きしたのと少し違いがあるようでございますが、チェック機能をきちんと今後もされて万全な体制で臨んでいただけたらと思います。

次に、町職員が行っている出前講座についてでございますが、平成28年度は自治会や企業から7回の依頼があったようでございますが、内訳はどのようなことでございますか、お聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（橋本健一郎）

答弁でもございましたけれども、平成28年度については7回というところでございます。先程、答弁でもございましたけれども、内容としては、介護保険についてが1回、自治会から要請がございました。そのほか、高齢者の健康管理というところで3件、こちらは自治会が2件と、あと信用金庫で1回でございます。あと下水道について、こちらが自治会で1件。あと母親クラブから乳がんの關係の自己触診と予防についてということで1件と、あとメタボリック症候群の關係が自治会で1件ということで、計7件の依頼があったところでございます。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

依頼内容が大変充実されておりますので、昨年、申し込みがなかった自治会の事情などを組み込みながら、ほかの自治会のケーススタディをアピールされるお考えはございませんでしょうか、お聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（橋本健一郎）

お答えします。

こちらの生涯学習講座、先程、答弁書でもございましたけれども、おしらせ版に一覧表、講座メニューということで載せさせていただいております。今年度につきましても、特に今年については、みなみ自治会、そちらが自治会を開設するという中では、多くの回数をいただいて実施しているところもございます。今後につきましても、こちらの講座メニューを見ていただいた中で団体からも御依頼等がございますので、個々に、またさらに御紹介というお話でございますけれども、おしらせ版に載せているという中では周知はされているかなと考えているところでございます。

あと、先程、教育長の申しました各自治会においては、生涯学習推進員がおられますので、そういった中でも取り組みはされているというところでございます。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

町民の学習機会の充実には従来から取り組んできたが、今後は、講師として教えることが生きがいや、やりがいにつながるという視点でも取り組みを推進したいと考えているという御答弁でございましたが、具体的にどのようなことを計画されているのか、お聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（橋本健一郎）

お答えいたします。

こちらの生涯学習講座に参加される講師の方を含めて、参加いただきます。その後、新たなグループを立ち上げられているところもいくつかございます。そういった中では、学んだ方が、学ぶだけではなく、今度は自分が講師としてやってみようという意欲のある方もいらっしゃいますので、そういった方が育つような形に持っていければというところでお話をさせていただきました。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

先程、一番最初にお答えしましたように、開成町の教育振興基本計画の中で、もうそろそろ来年で10年になるわけですがけれども、一番最初、やはり生涯学習のところで題材になったのは、団塊の世代を何とか生き生きとした開成町にするための素材にしていこうというのが始まりです。

ですから、生涯学習講座の受講生としてという立場よりも、社会で様々な経験をした人たちが定年を迎えて町にあふれてくるだろうという予測のもとに、団塊の世代の人たちが教えるということ、いろいろ自分の体験を町民につないでいくことに生きがいを持てるような社会にしていこうというのが、当初、平成22年につくったときの社会情勢と、また生涯学習に対する考え方だったのですが、実は、平成26年に新しく、また中間の見直しをしたのですが、社会が大きく変化して、団塊の世代が65歳まで働くのだというような社会構造になってしまったために、なかなか講師としてやってもらうという形が少し崩れてきたというのも事実です。

ですから、先程、申しましたように、今までは誰かに与えられた中で生涯学習を学んでいく立場だったのが、実は自分が多くの人に子どもを含めて、語りかけていくこと、あるいは、やはり生きがいを持つこと、そういうことに取り組んでいかないと豊かな社会構成にはならないだろうということで、いわゆる学ぶだけでなく講師として教える喜びを持たせるという取り組みを考えています。

ですから、これには各種団体の皆さんのお力を借りなければいけないわけですが、団体の中でそれぞれ活躍している人たちに人材バンクに登録をしていただきながら、それぞれが要求に応じて、自分が教える立場になって生きがいを持っていくという形に今後、取り組んでいきたいと考えているところでございます。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

今、教育長から大変素晴らしいお言葉をいただきまして、団塊の世代の方たちが今後10年したら後期高齢者になるということで、そういうときの対応で生涯学習

ということも考えたということでございますが。

成功事例をちょっと私はお話しさせていただきたいと思いますが、ある団体に所属している方が、開成小学校の現職のときに、出前講座で高齢者の方たちが生き生きと発表され、人生を謳歌している姿をご覧になって、私は退職後はその団体に入り活躍したいと、そう強く思われた方が、現在、そのような方法で活躍されて、今回の訪中の仲間の一員として参加されまして中国ですばらしい発表をされました。中国でも、その方の生きざまプラスアルファで発表されたわけでございますが、それが中国の皆様大変共鳴を与えたようでございます。最後、「私は１００歳まで生涯現役で過ごします」と大変力強いお言葉で言われました。多くの方に、今、教育長も言われましたように、勇気を与えたように存じます。ぜひ、開成町も、そのように良い事例の方々がたくさんおりますので、取り組んでいていただきたいと思います。

次に、開成南小学校の利用促進の中に調理室がございませんが、なぜでございますか、お聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（橋本健一郎）

お答えしたいと思います。

調理室については、表現としては家庭科室というところで表現をさせていただいているところでございます。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○７番（下山千津子）

それでは、家庭科室、調理室もそうなのですけれども、利用状況はどのようでございますでしょうか、お聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（橋本健一郎）

お答えしたいと思います。

先程、答弁の中でもございましたけれども、多目的ホールですとか多目的室、こちらについては利用率が多いわけなのですけれども、やはり特殊な目的となります音楽室ですとか図工室、家庭科室、こちらについては大変、利用率については低い状態でございます。

先程、全体の特殊な部屋の合計としては８％程度と合計として申しておりますけれども、実際、家庭科室につきましては、昨年、平成２８年度で申しますと、年間で言いますと、ほとんど利用率はないような状況でございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

先程、私も質問させていただきましたが、開成南小学校は学校施設だけでなく生涯学習の場としての利用をしていただきましょうということで、町民に広く間口をあけた学校だと私も認識をしてございます。ですので、御答弁の中に利用の拡大につなげていきたいと御答弁いただきましたが、音楽室の利用が8%と少ないようでございますが、その原因をどのようにお考えか、お聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（橋本健一郎）

お答えします。

特殊な部屋というところで、音楽室等を含めて平均8%ということでお答えしました。平成28年度の音楽室だけで申しますと、二つ、第一音楽室と第二音楽室がございすけれども、こちらが第二音楽室ですと27.8%、第一音楽室については10.5%ということでございます。こちら子ども合唱の方とかが御利用いただいているというところでございますので、場所的なものですとか、あとは、やはり先程の家庭科室については、調理室はあるわけですが、そういったところでは、こちらの町民センターの保健センターにも調理施設がございすので、どうしても、そちらの利用率のほうが高いかなと思いますので。そういった中では、先程、言いましたとおり、自治会の生涯学習推進員等がおりますので、そういったところにも働きかけて、できるだけ、こういった特殊な部屋の利用についても利用率が向上するような形で取り組みはしていきたいと思っております。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

この音楽室の件ですが、以前も私が教育委員会の方にお聞きしたところ、楽器の貸し出しはしていないと。ですが、借りているほうの側からちょっとお聞きいたしましたら、そういう部分でも、もう少し緩やかな対応をしていただけるとありがたいのだけれどもということをおっしゃいました。課題は、楽器が壊れたときに、その次の日に授業があつたりすると生徒に迷惑をかけるし、授業が成立しないようなことも考え得るので貸し出しはしていないと。

そこで私は提案なのでございますが、この近隣で本の貸出制度というのがございすけれども、この仕組みを楽器の利用のために取り入れるお考えはございませんでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

お答えになるかどうかは分かりませんが、全く楽器の借用については考え

ていないというのが現状です。子どもたちについても、大きな楽器については先程も施設整備の中でお話ししましたように備品で買っているけれども、個々の使うものについては衛生管理上も子どもの自己負担という形になっておりますので、楽器を貸し出しするということについては、大きなもの、ピアノとかオルガンとか、そういうことについてはあるかと思えますけれども、今のところありません。

また、先程から質問されているように、あくまで学校施設の借用は登録団体が使うということですので、登録をするときに、こういう活動をするというのをもらっていますので、今、議員がおっしゃるように不都合があるとかどうだというのは、どういう形の中でそういう意見が出ているのか。団体登録をしていなければ学校施設は使えないのだよということが周知されていないから、個々の人たちがそう言っているのかどうか分かりませんが、ぜひ教育委員会にそういうお声を出していただきながら、皆さんが使いやすいように取り組んでいきたいと思います。今のところ、関係団体44団体の中では、そういうことは出ていないというのが現状でございます。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

この近隣で私が調査をいたしましたら、4町の中には楽器の貸し出しをしているところの町もございました。ですので、開成町もできなくはないなということで、開成町初の制度とか、そういうものもお作りになって県内の市町村に発信したり教育の町の一環として開成町をPRできたら、すばらしい取り組みとなると考えて質問させていただきました。

音楽室を利用されている登録団体の方が、楽器についてちょっとお願いがあるのだけれどもという形でお話をなされたことに、音楽室の棚がいつも空いているので、子どもたちが重い楽器を持って練習するのが大変なので、そういった棚をお借りできたらありがたいのですがというお言葉を頂戴いただきましたが、そういう点の融通とかはできるでしょうか、お伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（橋本健一郎）

楽器の置き場所というところでございますけれども、そういったところでは、皆様が使われるところでございますので、次から次へというようなことにもなりかねませんので、そういったところは考えておりません。ただし、体育施設、そういったところでは一部、スポーツに関する備品等については置き場所を確保している状況はございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○ 7 番（下山千津子）

音楽室に関しては考えていないということでございますが、音楽室の棚が空いているということの現実がございますので、どうぞ前向きに検討していただけたらありがたいと思います。

今後も開成スタイルで町民の福祉の充実を期待して、私の質問を終わらせていただきます。

○議長（茅沼隆文）

ここで暫時休憩いたします。再開を 11 時 5 分といたします。

午前 10 時 47 分

○議長（茅沼隆文）

それでは、再開いたします。

午前 11 時 5 分

○議長（茅沼隆文）

引き続き、一般質問を行います。その前に教育長から発言を求められておりますので、許可いたします。

○教育長（鳥海 均）

すみません。先程、下山議員の御質問に対して、町長から指示した云々という話がありまして、教育長として、大変申し訳なく思います。教育委員会としましては、独立した教育行政の中で、きちんと今後取り組むということを議員の皆様へ謝ります。今後気をつけます。ありがとうございました。